法院組織法第三草案

目次

第一章　總則　一
第二章　地方法院　四
第三章　高等法院　七
第四章　最高法院　九
第五章　推事　一二
第六章　書記官及繙譯官　一八
第七章　法官及室丁　二一
第八章　檢事及法庭警察　二二
第九章　裁判ノ評議　二五
第十章　司法事務ノ共助　二六
第十一章　司法行政ノ監督　二七

第一章　總則

第一條　法院ハ民事刑事ノ訴訟案件ヲ審判シ並ニ法律ノ定ムル所ニ依リ非訟案件及其ノ他ノ案件ヲ管轄ス

第二條　法院ハ左ノ三級ニ分ツ

一　地方法院

二　高等法院

三　最高法院

第三條　司法部長ハ地方法院又ハ高等法院ノ事務ノ一部ヲ處理セシムル爲其ノ分院ヲ設置スルコトヲ得

第四條　法院ハ法律ニ依リ獨立シテ審判權ヲ行使ス

第五條　法院ノ權限及權限行使ノ方法ハ本法ニ規定スルモノノ外訴訟法其ノ他ノ法律ノ定ムル所ニ依ル

第六條　法院及分院ニ推事ヲ置ク

第七條　法院ニ院長ヲ置ク

最高法院及高等法院ニ次長ヲ地方法院ニ副院長ヲ置クコトヲ得

院長ハ其ノ法院及分院ノ行政事務ヲ統理ス

次長及副院長ハ院長ノ行政事務ヲ補佐シ院長差支アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

高等法院分院及地方法院分院ノ一人ノ推事又ハ書記推事ハ其ノ本院ノ院長及次長又ハ副院長ノ命ヲ承ケ各分院ノ行政事務ヲ掌ル

第八條　法院及分院ニ庶務科ヲ置ク

庶務科ノ組織及執務ニ關スル事項ハ司法部長之ヲ定ム

第九條　司法年度ハ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ル

第十條　法院及分院ノ事務ハ之ヲ各廳及各推事ニ分配ス

廳ノ構成其ノ他ノ推事ノ配置及事務分配並差支アル場合ニ於ケル代理順序ハ毎年度ノ終ニ於テ翌年度分ニ付院長次長又ハ副院長ト協議シテ豫メ之ヲ定ム

第十一條　法院及分院ノ事務分配及廳ノ構成、推事ノ配置ハ當該司法年度中之ヲ變更スルコトヲ得ズ但シ必要アルトキハ院長ハ次長又ハ副院長ト協議シテ之ヲ變更スルコトヲ得

第十二條　法院及分院ニ分配セラレタル事務ガ當該司法年度内ニ於テ完結セザルトキハ其ノ分配ヲ受ケタル裁判官ハ推事ヲシテ之ヲ繼續結了セシムルコトヲ得

第十三條　法院及分院ノ處務規定ハ司法部長之ヲ定ム

第二章　地方法院

第十四條　地方法院ノ審判權ハ單獨ノ推事之ヲ行使ス

第十五條　地方法院及其ノ分院ノ管轄案件左ノ如シ

一　民事刑事ノ第一審訴訟案件

二　非訟案件

三　破産案件

前項ノ規定ハ法律ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條　非訟案件中登記及公證ノ事務ハ學習法官又ハ書記官ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十七條　司法部長ハ地方法院ノ登記事務ノ一部ヲ處理セシムル爲其ノ分處ヲ設置スルコトヲ得

第十八條　地方法院及分院ニ執達員ヲ置ク執達員ハ委任又ハ委任待遇トシ院長之ヲ任補ス

執達員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ文書ノ送達、裁判ノ執行其ノ他ノ事務ヲ掌ル

執達員ノ任用資格及職務ニ關スル規定ハ司法部長之ヲ定ム

第十九條　高等法院長ハ管轄區域內ノ地方法院又ハ其ノ分院ノ推事差支ノ爲事務ヲ執行スルコト能ハズ且其ノ廳ノ推事中代理ヲ爲シ得ベキ者ナキ場合ニ於テハ次長ト協議シテ管轄區域內ノ他ノ地方法院又ハ其ノ分院ノ推事又ハ候補推事ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第二十條　司法部長ハ地方法院又ハ其ノ分院ガ事務ノ全部又ハ一部ヲ取扱フコトヲ得ザル事由ヲ生ジタル場合ニ於テハ他ノ地方法院又ハ分院ヲシテ代リテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十一條　地方法院長ハ本院ノ推事ヲ派シ分院ノ推事ノ職務ヲ兼行セシムルコトヲ得

第三章　高等法院

第二十二條　高等法院ノ審判官ハ推事三人ヲ以テ組織シタル廳ノ評議ニ依リ之ヲ行使ス

第二十三條　高等法院及其ノ分院ニ民事廳及刑事廳ヲ置ク

廳ノ長ハ司法部長之ヲ定ム

廳ニ廳長ヲ置ク

廳長及次長ハ廳長トナル

廳長ハ審判長トナリ且院長及次長ノ命ヲ受ケ廳ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

廳長差支アルトキハ廳ノ次席推事之ヲ代理ス

第二十四條　高等法院及分院ノ管轄事件左ノ如シ

一 內亂外患及對外關係ニ關スル刑事第一審訴訟案件
二 蒙古王侯ニ對スル民事第一審訴訟案件
三 地方法院ノ第一審判決ニ對スル上訴案件
四 地方法院ノ裁定ニ對スル抗告案件

第二十五條　院長ハ高等法院又ハ其ノ分院ノ推事為文ノ職務ヲ執ルコト能ハズ且其ノ國ノ推事中代理ヲ爲シ得ベキ者ナキ場合ニ於テハ永長ト協議シテ管內ノ地方法院又ハ其ノ分院ノ推事ニ其ノ代理ヲ命ズルコトヲ得但シ候補推事ニ之ヲ命ズルコトヲ得ズ

第二十六條　第二十條及第二十一條ノ規定ハ高等法院及其ノ分院ニ之ヲ準用ス

第四章　最高法院

第二十七條　最高法院ノ審判權ハ推事三人ヲ以テ組織シタル廷ノ評議ニ依リ之ヲ行使ス

第二十八條　最高法院ノ管轄案件左ノ如シ

一　高等法院ノ第一審判決ニ對スル上訴案件

二　高等法院ノ第二審判決ニ對スル上訴案件

三　第一審且終審トシテ最高法院ノ特別權限ニ屬スル刑事案件

四　高等法院ノ裁定ニ對スル抗告案件

五　非常上訴案件

第二十九條　院長ハ推事差支ノ爲職務ヲ執行スルコト能ハズ且其ノ應ノ推事中代理ヲ爲シ得ベキ者ナキ場合ニ於テ必要ト認ムルトキ

ハ次長ト協議シテ高等法院又ハ其ノ分院ノ審事ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第三十條　最高法院ノ審判ニシテ法令ノ解釋ヲ宣示シタルモノハ當該案件ニ付下級審ヲ羈束ス

第三十一條　最高法院ニ於テ法令ノ解釋ニ付變ニ爲シタル審判ト異ナル審判ヲ爲サントスルトキハ案件ノ性質ニ從ヒ民事若ハ刑事ノ總廳又ハ民事及刑事ノ總廳ヲ聯合シタル廳ニ於テ審判ヲ爲ス

聯合廳ノ審判ノ開始ハ當該案件ノ繫屬スル廳ノ請求ニ依リ院長次長ト協議シテ之ヲ命ズ

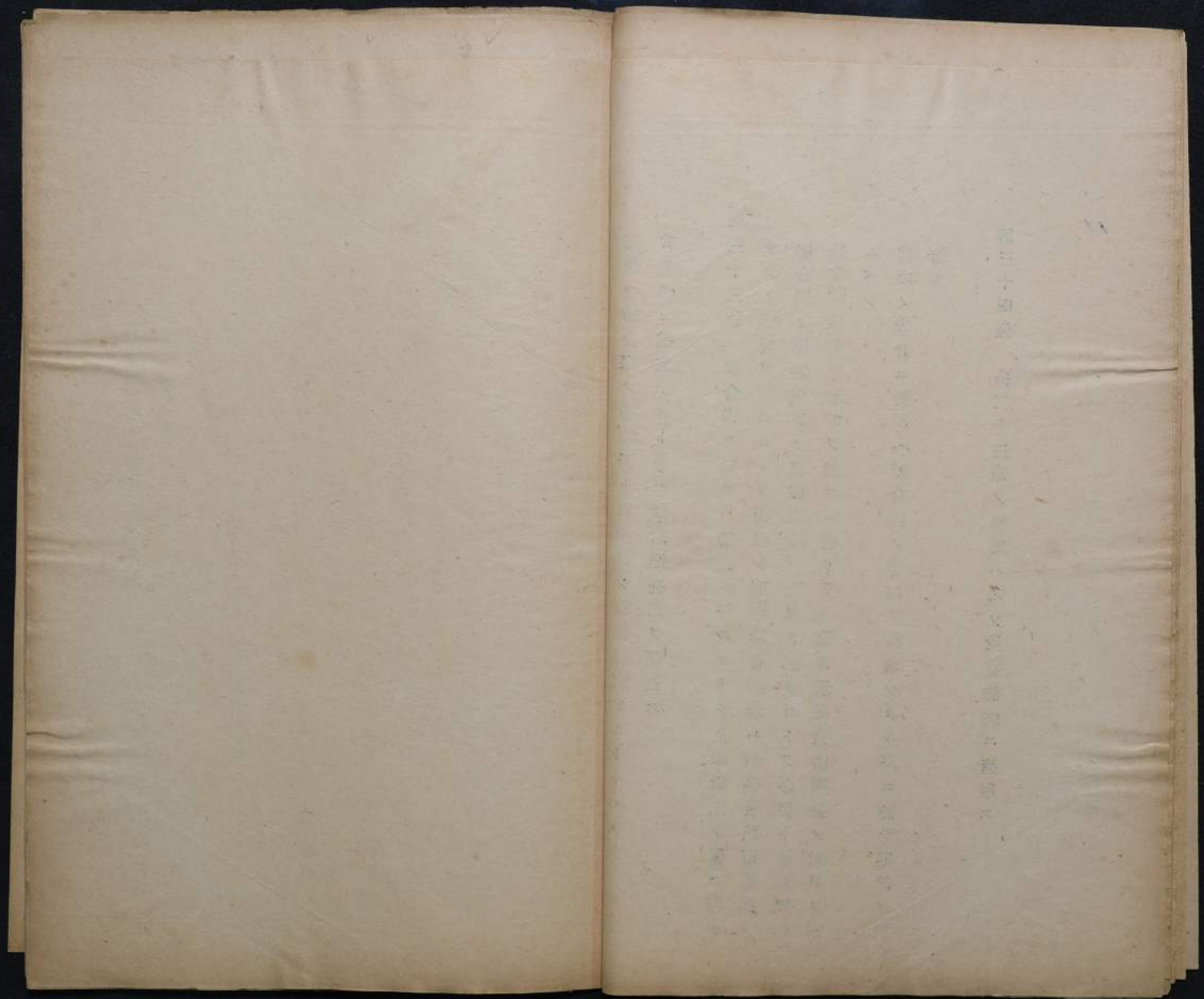
第三十二條　聯合廳ノ審判ハ推事三分ノ二以上在廳スルニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得ズ

院長ハ聯合廳ノ審判長ト爲ル但シ院長差支アルトキハ次長、院長次長共ニ差支アルトキハ資深廳長之ヲ代理ス

第三十三條　聯合廳ニ於テハ辯論ヲ經ルコトナク法律上ノ點ニ關シテノミ審判ヲ爲スコトヲ得但シ刑事聯合廳若ハ刑事及民事總廳ノ聯合廳ノ審判並其ノ他檢察廳ノ意見ヲ聽クコトヲ必要トスル民事及非訟案件ノ審判ヲ爲スニ當リテハ豫メ最高檢察廳長ノ意見ヲ求ムベシ

前項ノ場合ニ於テハ聯合廳ノ審判ヲ請求シタル廳ニ於テ案件ヲ完結ス

第三十四條　第二十三條ノ規定ハ之ヲ最高法院ニ適用ス



第五章　推　事

第三十五條　推事ハ左記資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一　學習法官トシテ一年六月以上法院及檢察廳並司法部長ノ指定スル處ニ於テ事務ヲ修習シ且考試ニ合格シタル者

二　律師トシテ五年以上實務ニ從事シタル者

三　大日本帝國、中華民國ノ他ノ政府又ハ滿洲帝國ニ於テ推事或ハ檢察官タリ得ベキ資格ヲ有スル者

學修法官ノ實務ノ修習並考試ニ關スル事項ハ司法部長之ヲ定ム

第三十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ推事ニ任用スルコトヲ得ズ

一　拘役以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　破產ノ宣告ヲ受ケ復權セザル者

三　禁治産者
四　懲戒ノ處分ニ依リ免官セラレタル者
五　律師懲戒處分ニ依リ除名セラレ復權セザル者
六　阿片又ハ其ノ他ノ毒品ヲ吸食スル者

第三十七條　學習法官ハ左記一ノ資格ヲ有スル者ノ中ヨリ司法部長之ヲ任命ス

一　司法部職員訓練所第一部甲班ヲ畢業シタル者
二　司法考試ニ合格シタル者
三　大日本帝國、中華民國ノ他ノ政府又ハ滿洲帝國ニ於テ學習法官タリ得ベキ者

司法部職員訓練所及司法考試ニ關スル事項ハ司法部長之ヲ定ム

第三十八條　司法部長ハ新ニ推事ニ任ゼラレタル者ヲ一時候補推事

トシテ地方法院又ハ其ノ分院ニ勤務セシメ若ハ司法部ニ於テ司法行政事務ニ從事セシムルコトヲ得

候補推事ハ法律ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ勤務ヲ命ゼラレタル職ノ推事ト同一ノ職務ヲ行フ

第三十九條　推事ハ終身官トシ特任、簡任又ハ薦任トス

最高法院長ハ特任推事ヲ以テ之ヲ補シ又ハ簡任推事ヲ以テ主席ニ上申シ司法部長之ヲ補ス

高等法院長ハ司法部長ヨリ主席ニ上申シ簡任又ハ薦任推事ヲ以テ司法部長之ヲ補ス

最高法院次長ハ司法部長ヨリ主席ニ上申シ簡任推事ヲ以テ司法部長之ヲ補シ高等法院次長、地方法院副院長ハ簡任又ハ薦任推事ヲ以テ司法部長之ヲ補ス

其ノ他ノ推事ノ職ハ簡任又ハ薦任推事ヲ以テ司法部長之ヲ補ス

第四十條　五年以上推事タリシ者ニ非ザレバ高等法院推事ニ補セラルルコトヲ得ズ

十年以上推事タリシ者ニ非ザレバ最高法院推事ニ補セラルルコトヲ得ズ

第四十一條　推事タルベキ資格ヲ有スル者左記各號ノ職ニ有リタルトキハ前條ノ適用ニ付テハ之ヲ推事ノ在職ト看做ス

一　檢察官

二　司法部高等官

三　軍法官

四　實務ニ從事スル律師

推事タリ得ベキ資格ヲ有スル者大日本帝國、中華民國ノ他ノ地方又ハ滿洲帝國ニ於テ推事又ハ前項各號ニ相當スル職ニ有リタルトキ亦同ジ

第四十二條　推事ハ在職中左ノ職務ヲ爲スコトヲ得ズ

一　司法部高等官以外ノ行政官ヲ兼ヌルコト

二　政治ニ關與シ又ハ政黨若ハ政社ニ加入スルコト

三　商業ヲ營ミ又ハ營利法人ノ役員トナルコト

四　俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公職ニ就クコト

第四十三條　推事拘役以上ノ刑ニ處セラレ又ハ破産若ハ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其ノ官ヲ失フ

第四十四條　推事ノ不具廢疾又ハ心身ノ衰弱ニ因リ執務ニ堪エザルニ至リタルトキ或ハ不當ナル行狀ヲ示シ若ハ不良ナル嗜好ヲ有シ矯正ノ見込ナキトキハ司法部長ハ法官考査委員會ノ決議ニ依リ之ヲ退官セシムルコトヲ得

第四十五條　司法事務上ノ必要アルトキハ司法部長ハ法官考選委員會ノ決議ニ依リ推事ノ意ニ反シテ轉職ヲ命ズルコトヲ得

第四十六條　最高法院長年齢六十五年其ノ他ノ簡任推事年齢六十年簡任推事年齢五十五年ニ達シタルトキハ退職トス

但シ法官考選委員會ニ於テ五年以内ノ期間ヲ定メ仍在職セシムベキモノト決議シタルトキハ其ノ期間滿了ノ時ニ於テ退職ス

第四十七條　法院ノ廢止又ハ組織ノ變更ニ依リ其ノ廳ノ推事ヲ補スベキ闕位ナキニ至リタルトキハ司法部長ハ俸給ノ半額ヲ支給シテ休職ヲ命ジ闕位ヲ待タシムルコトヲ得

第四十八條　推事ハ前四條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外懲戒ノ處分ニ因ルニ非ザレバ免官、轉官、轉職、休職又ハ減俸セラルルコト

ナシ但シ候補推事ニ對シ其ノ勤務スベキ法院ノ變更ヲ命ズルコトヲ妨ゲズ

第四十九條　推事懲戒訴追又ハ刑事訴追ヲ開始セラレタル爲職務ヲ執ルコト能ハザル期間内ハ俸給ヲ支給セズ

第五十條　推事ノ懲戒ニ關スル事項ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條　法官考選委員會ニ關スル事項ハ司法部長之ヲ定ム

第六章　書記官及通譯官

第五十二條　法院及分院ニ書記官ヲ置ク書記官ハ爲任又ハ委任トス

書記官ハ審問ニ立會ヒ記錄ヲ掌理シ卷宗ヲ保管シ其ノ他法令ノ定ムル職務ヲ執行シ並上司ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第五十三條　書記官ハ考試ニ合格シタル者又ハ大日本帝國、中華民國ノ他ノ政府若ハ滿洲帝國ニ於テ書記官タルノ資格ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

前項ノ考試ニ關スル事項及書記官ノ職務執行ノ方法ニ關スル事項ハ司法部長之ヲ定ム

第五十四條　法院長及分院ノ一人ノ推事若ハ資深推事ハ其ノ關ニ屬セラレタル學習法官ヲシテ臨時ニ書記官ノ事務ヲ兼理セシムルコトヲ得

第五十五條　法院及分院ニ書記官長ヲ置キ必要アルトキハ書記官

官ヲ置クコトヲ得

書記官長ハ上司ノ命ヲ承ケ司法行政ニ關スル書記官ノ事務ヲ指揮監督ス

首席書記官ハ書記官長ヲ補助シ書記官長差支アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第五十六條　法院及分院ニ給譯官ヲ置クコトヲ得給譯官ハ總任又ハ委任トス

給譯官ハ給譯ノ事務ニ從事ス

第五十七條　書記官長、首席書記官、書記官及給譯官ノ職ハ司法部長之ヲ補ス

第七章　法警及廷丁

第五十八條　法院及分院ニ法警ヲ置ク法警ハ委任又ハ委任待遇トス

法警ハ審判長又ハ推事ノ命ヲ受ケ法廷ノ秩序ヲ維持シ其ノ他法令ノ定ムル職務ヲ執行ス

第五十九條　法院及分院ニ廷丁ヲ置ク廷丁ハ委任待遇トス

廷丁ハ審判長推事及書記官ノ命ニ從ヒ訴訟關係人ヲ導引シ其ノ他司法部長ノ定ムル事務ニ從事ス

第六十條　法警及廷丁ハ院長又ハ分院ノ一人ノ推事若ハ資深推事司法部長ノ認可ヲ受ケ之ヲ任補ス

第八章　開廷及法廷警察

第六十一條　法廷ハ法院又ハ分院内ニ之ヲ開ク但シ事務處理上必要ナルトキハ管轄區域内ノ一定ノ場所ニ臨ミテ臨時ニ開廷スルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テ推事ハ本院推事ヲ指定派遣スル場合ヲ除クノ外高等法院ニ在リテハ其ノ分院若ハ管内地方法院ノ推事、地方法院ニ在リテハ其ノ分院ノ推事ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第六十二條　法廷ハ定後ノ推事從廷スルニ非ザレバ之ヲ開クコトヲ得ズ

法院長ハ必要アリト認ムルトキハ審判長ノ請求ニ依リ定員外ニ補充推事ヲ從廷セシムルコトヲ得

補充推事ハ審判ニ立會ヒ定員推事差支ヘアルトキ之ニ代ル

第六十三條　審判長ハ法廷ノ開閉、開廷中ノ秩序維持及訴訟ノ審理ニ付指揮權ヲ有ス

第六十四條　對審判決ノ公開ヲ停止スルノ決議ハ理由ヲ開示シテ之ヲ宣言スベシ

公開ヲ停止シタル場合ト雖審判長ハ相當ト認ムル者ノ在廷ヲ允許スルコトヲ得

第六十五條　審判長ハ法廷ノ威嚴又ハ秩序ヲ害スル虞アル者ノ入廷ヲ禁止シ又ハ其ノ退廷ヲ命ズルコトヲ得

第六十六條　審判長ハ法廷ノ秩序維持ノ爲必要アリト認ムルトキハ開廷中審判ヲ妨ゲ又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ニ對シ其ノ退廷ヲ命ズル外尙左記ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　開廷ニ至ル迄看管ヲ命ズルコト

二　十日以下ノ拘留又ハ五百圓以下ノ罰錢

法廷ニ於テ訴訟ヲ代理シ若ハ案件ノ辯護ヲ爲ス律師又ハ辯護人、補佐人ニ對シ前項ノ規定ヲ適用セントスルトキハ後ノ警告ヲ加フルコトヲ要ス

第六十七條　前二條ノ處分ニ對シテハ不服申立ヲ爲スコトヲ得ズ

審判長前二條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其旨其ノ理由ト共ニ訴訟記錄ニ記載スベシ

第六十八條　第六十五條ノ場合ニ於テ其ノ行爲犯罪ヲ構成スベキトキ又ハ開廷中犯罪アリタルトキハ審判長ハ行爲者ノ逮捕ヲ命ジ其件ヲ檢察廳ニ送致スルコトヲ得

第六十九條　本章ノ規定中審判長ニ屬スル權限ハ、受命推事、受託

推事又ハ地方法院及分院ノ單獨推事モ又之ヲ行使スルコトヲ得

第七十條　推事、檢察官、書記官、執達官及律師ハ法廷ニ於テ職務ヲ執行スルトキハ定式ノ制服ヲ着用ス

第九章　裁判ノ評議

第七十一條　裁判ノ評議ハ審判長之ヲ開キ且統理ス

評議ハ之ヲ公開セズ但シ候補推事及學習法官ノ傍聽ヲ允許スルコトヲ得

第七十二條　評議ニ於テハ推事ハ意見ノ陳述ヲ拒ムコトヲ得ズ

意見陳述ノ順序ハ資幾者ヲ先ニシ資同ニ在リテハ年少者ヲ先ニシ順次審判長ニ至リテ止ム

第七十三條　評議ハ過半數ノ意見ニ依リテ決ス

民事事件ニ付金額ニ關シ推事ノ意見一致セズ且孰レモ過半數ニ達セザルトキハ最高額ノ意見ヲ以テ次高額ノ意見ニ算入シ過半數ニ至リテ止ム

刑事ニ關シ推事ノ意見一致セズ且孰レモ過半數ニ達セザルトキハ被告ニ最モ不利ナル意見ヲ以テ次ノ不利ナル意見ニ算入シ過半數ニ至リテ止ム

第七十四條　評議ノ顛末並ニ推事ノ意見及多少ノ數ハ之ヲ評議簿ニ記載スベシ但シ秘密ヲ守ルコトヲ要ス

評議簿ノ取扱ニ關スル事項ハ司法部長之ヲ定ム

第十章　司法事務ノ共助

第七十五條　法院ハ其ノ事務ノ處理ニ關シ法律ノ定ムル所ニ從ヒ互ニ補助ヲ爲ス

補助ノ囑託ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ行爲ヲ爲スベキ地ノ地方法院ニ對シテ之ヲ爲ス

第七十六條　書記官及執達員ハ各其ノ事務ノ處理ニ關シ法令ノ定ムル所ニ依リ互ニ補助ヲ爲ス

第七十七條　政府ト外國政府又ハ中華民國ノ他ノ政府間ニ司法事務ノ共助ニ關シ別段ノ協約ノ存セザルトキト雖政府ノ公安及利益ヲ害スル虞ナキ限リ法院ハ司法部長ノ許可ヲ受ケ此等政府ノ司法機關ニ依ル司法事務ノ囑託ニ應ズルコトヲ得

第十一章　司法行政ノ監督

第七十八條　行政監督權ノ行使ハ左ノ規定ニ依ル

一　司法部長ハ各級法院ヲ監督ス

二　最高法院長ハ隊院及下級法院ヲ監督ス

三　高等法院長ハ該院及其ノ分院並管内ノ下級法院ヲ監督ス

四　地方法院長ハ該院及其ノ分院ヲ監督ス

五　高等法院分院及地方法院分院ノ一人ノ推事若ハ數人推事ハ該分院ヲ監督ス

第七十九條　司法事務ノ處理延滯セルトキ又ハ其ノ當ヲ得ザルトキハ利害關係人ハ司法部長其ノ他ノ監督官ニ申告スルコトヲ得但シ訴訟法其ノ他ノ法令ニ於テ不服申立ニ關スル規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八十條　本章ノ規定ニ依ル監督權ノ行使ハ審判ニ涉及シ又ハ推事ノ職務ヲ左右スルコトヲ得ズ